

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2570500146
法人名	特定非営利活動法人 しみんふくしの家八日市
事業所名	しみんふくしの家八日市グループホーム
訪問調査日	2009年 12月 28日
評価確定日	2010年 3月 16日
評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 12月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2570500146
法人名	特定非営利活動法人 しみんふくしの家八日市
事業所名	しみんふくしの家八日市グループホーム
所在地	〒527-0033 滋賀県東近江市東沖野町2丁目5-6 (電話) 0748-20-5457

評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会
所在地	〒520-2352 滋賀県野洲市富波乙681-56
訪問調査日	2009年12月28日

【情報提供票より】(平成22年1月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・○平成 13年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 7人, 非常勤 7人, 常勤換算	8.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	73歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤本クリニック・永源寺診療所・井田歯科東診療所
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業主体のNPO法人は「人々が互いに支えあい、互いに尊敬し合い、住み慣れた我が家やわが町で自分らしい生活がいつまでも続けられること」を理念として設立された。この理念を実現するために、グループホームを中心に、地域住民に無料開放されているあったか広場や学童クラブ、保育事業など地域住民と交流をするための色々な事業を展開している。また、行政に働きかけて自治会対象に認知症研修をしたり、医師会と連携して医療フォーラムを開催するなど活発に活動している。グループホームでは、利用者の身体能力低下に対応する為に日中の職員体制を4人にする等、利用者一人ひとりがより良い生活を送るためにきめ細かく対応を工夫している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、「同業者との交流」と「災害対策」の2点が改善課題となっていた。同業者との交流については、現在参加しているグループホーム部会の開催内容が、職員対象のように思われないので今のまま管理者の参加交流で良いと思われた。また、災害訓練については夜間想定訓練は月一回しており、職員に地域自治会の会員が3名おり、夜間に関しては自治会長など2名が支援することを引き受けてくれており、さしあたっての課題は解決できている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員に自己評価の用紙を渡し、記入できるところを記入してもらって、管理者がまとめたものを最終的には施設長がまとめている。利用者お一人お一人によりよい生活を支援するために自己評価は意欲的に取り組まれている。</p>
	<p>重点項目② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3カ月に1回開催されている。運営推進会議の在り方を模索している。現在は、夏の夕涼み会や冬のクリスマス会を運営推進会議が中心になって企画運営し、地域住民への広報も行って、多くの参加者を得ている。運営推進会議で委員から、地域住民の中に認知症ではないかと思われる方がいるかどうかを聞いて良いかわからないという声があり「今までとは違う状態はありませんか」というパンフレットをつくった。今、それを自治会で回覧しようという計画である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問は多く、訪問時に意見を聞くようにしている。連絡は密にとるようにしている。遠隔地におられるご家族にはメールや電話で報告し、連絡し合っている。意見や苦情が出た時は話し合っって納得していただくように努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、その行事に参加しているし、グループホームの運営推進会議が中心になって夏の夕涼み会やクリスマス会を開催し、地域住民も多く参加され、双方向での交流がある。グループホームと同じ建物内に学童クラブがあり、訪問時にも子ども達の元気な声が聞こえていた。隣接するあったか広場は地域に無償で提供され、地域のボランティアが主体となって高齢者サロンが開催され、グループホームの住民も参加している。地域の人にもう少し気軽に遊びに来ていただける関係づくりを模索中である。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	NPO法人「しみんふくしの家八日市」は「人々が互いに支え合い、互いに尊敬し合い、住み慣れた我が家やわが町で、自分らしい生活がいつまでも続けられること」を理念とし、その環境を作っていく一つの事業としてグループホームを運営している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の一人ひとりの暮らしが理念に沿ったものになっているかを管理者、職員が申し送りやミーティングで一緒に話し合い、確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事に参加している。また、同法人は、保育事業、学童クラブ、地域サロン、親子あつたか広場などを同じ建物内で運営しており、多世代の人との関わりが持てる環境づくりをしている。運営推進会議が主体となって夕涼み会やクリスマス会を開催し、地域の人々がたくさん参加されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価に取り組んだ。職員は自己評価することを「自分たちのケアのふりかえり」ととらえており、全職員が参加することで多くの気づきが得られ、それが改善に繋がっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を地域への窓口ととらえ、夕涼み会やクリスマス会を主催してもらっている。また会議での意見をもとに認知症と思われる方への訪問時の資料として「今までとは違う状況はありませんか？」のパンフレットを作った。地域の方にも参加を呼び掛け、高齢者の座談会や虐待の研修会を開催し地域への啓発に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市と協働して、自治会単位の認知症の研修会を開催したり、徘徊者への対応の模擬訓練、福祉と医療の連携を考える医療フォーラムなどを開催するなど、理念を実現するために積極的に市と連携しようとしている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者に変化があった場合はその都度電話で連絡している。暮らしぶりについては、訪問時に話すようにしているが、家族が遠隔地に住んでいる場合は、メールや電話で報告している。金銭については毎月報告している。職員の異動は余りないが、あった時は報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に施設内の苦情受付窓口や苦情解決責任者名を明記している。また、外部の苦情受付窓口も記載し契約時に説明している。家族の訪問時に意見が言いやすい環境づくりに努めている。ご家族の意見については、受け入れたうえで、グループホームの方針を理解して頂く努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は余りなく、開設以来ずっと働いている人が多かったが、最近、介護支援専門員の資格を取り退職した方があり、新規職員が採用された。働いている職員の知り合いの介護職経験者が新規に採用され、ゆったりとした雰囲気の中で、利用者ともすぐに慣れてもらうことができた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに全職員に受講希望研修内容を確認し、年に2回以上、受講希望研修を主として、何らかの外部の研修に参加している。研修参加については、勤務時間内外を問わず、規定により旅費・参加費等の費用を事業所が負担している。また、運営者は昇給や賞与を出せるように努力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者協会の中のグループホーム部会に管理者が参加している。年に1、2回の会議で、職員同士の交流というより毎回テーマを変えて話し合っており、管理者が参加し情報提供している。ケアマネジャーの事例検討会に参加し、交流、勉強会をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家庭訪問や面接で家族や本人が求めていることをつかむ努力をしている。また利用に際しては、本人が安心して居心地良く生活できるかどうか、本人の意思を尊重し、2週間ほどのお試し期間を設けている。過去に1例医療依存度が高く利用に繋がらなかったが、ほとんどはお試し期間からスムーズに利用に繋がっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の言葉づかいは丁寧で、利用者を一人の人として、又、人生の先輩として関わろうとしている様子がうかがえた。利用者の個性はさまざまであり、共同生活の中で利用者同士が理解し認め合うことは難しいということをよく理解して、食事の時のイスの配置など考慮されている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者全員にセンター方式でアセスメントをしている。本人との話や家族からの情報、日々の生活の中での些細な「気付き」などを書きとめておいて介護計画に繋げるなど、利用者の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回開催されるミーティングは原則として全員参加のもとに行われる。各利用者の担当者を中心に、利用者本人が居心地のよい生活を送れるように、さまざまな記録をもとに、皆で話し合っって介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回はモニタリングを実施して介護計画の見直しをしている。利用者に急な変化が生じた場合は、その都度ミーティングを開催し、介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算をとっており、医師との連絡や往診時には家族にも連絡して医師と話してもらうなど便宜を図っている。事業としてではなくサービスで、受診の付添や公的な申請などもできない家族には職員が代行しており、訪問リハビリの指導を受けたり、福祉用具の利用上のアドバイスを受けるなどの便宜も図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームと連携している医師は、地域医療に重点を置いており、往診してくれる。往診日を家族に知らせており、家族が来て医師に質問相談することもある。また、連携の医師ではなく、従来からのかかりつけ医に受診している利用者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	往診してくれる医師と連携できたことで、ホームで一人の利用者の看取りを行った。重度化しないように予防の観点は大切だが、事前に意思を確認したり、早めの対応は不可欠との思いから、重度化する中で、本人や家族、医師、運営者の話し合いを大切に、話し合いを積み重ねている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや対応はとても温かく、物腰柔らかかで、利用者一人ひとりを一人の人間として、その尊厳を大切にしようとしていることがよくわかる。記録は適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の思いではなく、利用者一人ひとりのペースに合わせて対応している。身体能力の低下に伴い、身体介護が必要な方が増えていく中で、一人ひとりの希望に沿って支援するために、日中は職員数が4人体制になるようにしている。訪問時も軽症の方2人に職員が1人付き、折り紙で虎のはし置きを作っていた		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、配膳、後片付け等利用者ができることを職員の見守りの中でしてもらっている。軽度の方が少なくなる中で、限られた利用者には食事の準備が偏りがちだが、内容によってできる方にしてもらうようになっている。食事時間は職員と利用者が一体となってワイワイ言いながらの楽しい時間である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介護度の重度の方が増え、入浴介助に職員3人の手が必要な方もあるが、機械浴は設置せずに人の手で介助してほぼ毎日入浴して頂いている。風呂場が改装され、広がって介助しやすい形になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自治会に加入しているため、自治会の行事に参加している。また、隣接するあつたカホームで地域のボランティアが開催している高齢者サロンやグループホームが主催する行事にも参加している。重度化が進む中、外出の機会は少なくなってきたが、スロープの設置で車いすの方も出やすくなった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い日は、庭に出たり、近所の散歩をしたりしているが、軽度の方、意思が伝えられる方に偏りがちである。家族の協力が得られるので、個別に出かけられることもある。重度の方が増えていく中で、全員での外出はぶどう狩りに行ったぐらいである。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間を除き、鍵は掛けていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は昼だけでなく夜間も想定した訓練を月1回実施している。夜間の火事が一番怖いと考えており、火災報知機及び火災通報装置を設置した。3名の職員が同じ自治会の会員であり、自治会の防災訓練にも参加した。昼夜を問わず、地域の方2名が緊急の連絡先を受けてくださっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はほとんどの方がしっかり食べておられた。食事は水分量とともに細かく記録され、摂取量の少ない方は補給をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、ごくごく普通の家庭の雰囲気である。思い思いにおかれたソファやイスでそれぞれの居場所づくりが考えられている。季節の花が飾られたり、廊下の壁には写真が貼られたりしていた。庭に面した大きな窓があり、明るい居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの個性が感じられる部屋となっている。すっきりと片付いた部屋、思い思いに飾ってある部屋、実にさまざまであった。ベッドを使う人、布団を敷いて寝る人、これもその人の都合のよいように用意されている。		